

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(西ユニット)		
所在地	〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域の方々との繋がりを大切にしている、地域の奉仕作業やイベントに積極的に参加しています。 ②豊かな自然を利用し、農作業やヤギの飼育などを行っています。 ③体育館を併設しているので大きなイベントや地域に開放し地域貢献にもなっています。また、避難所としても活用されています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北山崎に近い段丘上の机地区に立地する事業所は、旧小学校の校舎を改装して整備した建物を活用している。地域にとって、閉校した小学校の校舎を改装して存続している事業所の存在は大きいものがあり、福祉避難所となっている体育館も含めて無くてはならない施設となっている。事業所としても積極的に地域との交流活動に取り組んでおり、体育館での小学生とのミニ運動会やカラオケ同行会と一緒にカラオケを楽しむなどの有意義な行事も多い。また、ホームの広報誌を村内の全戸に配布して、地域への理解促進に注力していることも高く評価できる。食事を楽しむ支援にも積極的に取り組み、利用者の好みを把握したうえで、郷土料理の日やパンの日などを設定して楽しい食事の機会を提供している。地域住民にとっても必要不可欠な存在となっている事業所である。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で自信をもって唱和し、実践に取り組んでいる。玄関先やスタッフルーム、各ユニットに掲示している。	職員も参加して作成した理念は「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさを支えるケア」とする分かり易いものである。理念を各ユニット内や玄関、事務室などに掲示して毎日の朝礼でも唱和し、職員に良く理解され浸透している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行し、地域の花植えやカラオケ、歌手の来所などで徐々に地域との交流も再開できています。	普段から地域内の住民との交流は活発であり、地域の花植えや清掃活動に職員が参加し、一方で地域の方々からは大根などの野菜の差し入れが日常的に頂いている。敷地内の樹木の伐採や草刈りなども地域の方が手伝ってくれている。旧体育館を使用した地元の小学生とのミニ運動会やカラオケ同好会との共催でカラオケを楽しむこともあり、地域との連携や交流が理想的に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学校協働活動のひとつとして、施設の説明や施設利用者とのゲームや運動など、小学生との交流会をおこなっている。認知症カフェにも参加して知り合いの方との再開し話が弾んでおられました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行った行事の報告、職員の研修状況、行事予定、身体拘束の有無を報告しています。また、小学生との交流会では一緒に参加していただき実際の様子をみていただきました。	コロナ感染症が5類に移行した以降は、集合しての開催を復活している。地域から部落会長や2人の民生委員、村議会議員、消防署長が参加し、バランスよい構成となっている。会議では身体拘束廃止委員会の取り組みなども紹介され、小学生とのミニ運動会の感想など、有意義な意見交換がなされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月のケア会議に出席している。役場や他施設担当者、包括支援センターと情報共有している。電話だけでなく、直接相談することもある。	運営推進会議には役場と地域包括支援センターから、職員が毎回参加し、事業所の状況は十分承知していただいている。村主催の地域ケア会議には、事業所からも参加し、他の事業所等との連携の機会となっている。旧小学校の体育館は福祉避難所となっており、役場からの指示で開設することになっている。生活保護受給者も入居しているが、担当ケースワーカーは年1、2回程度、来訪している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保のために玄関の施錠の工夫やセンサーの使用を最小限にするために、使用する時や外すときには身体拘束廃止委員会を開いている。毎回の運営推進会議で報告している。また、身体拘束防止の研修を行っています。	身体拘束廃止委員会を虐待防止委員会と併せて3カ月に1回以上開催し、内容については運営推進会議にも報告して理解を得ている。転倒防止のためのベッドセンサーは6人が使用し、事前に家族に説明して了解を得ている。スピーチロックはあまり見られていないが、定期的に職員の勉強会を実施して理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、内外で研修を行っています。また、入浴時の皮膚の変化や暴言などないか常にチェックしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが、必要性があれば包括支援センターや役場と連携し支援していく。成年後見制度についても研修の機会があれば積極的に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する時に契約内容や重要事項説明書を読み上げ説明し疑問点など確認しながら、安心、納得して契約して頂けるよう勤めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口を開設し、苦情があればすぐに対応している。日々の日常会話から聞いたり、面会時やケアプラン更新時に意見があれば担当者会議を開き改善へ向け検討しています。	家族とは来訪時に面談機会を持っている。運動させたり歩かせてほしいとの要望もあり、理学療法士のアドバイスも得て実践に繋げている。ホーム独自で2年ごとに家族アンケートを行っているが、意見はあまり出されていない。事業所の広報誌を村の全戸に配布し、事業所の理解促進を進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	春、夏、冬年3回自己評価と職員の意見を書面で聞いています。それ以外の時でも意見を言いやすい環境にあり、ユニット会議などで意見なども管理職会議で話し合い検討して実現可能な物は反映させています。	2カ月毎のユニット会議や毎朝の朝礼の際に、職員から多くの意見が出されている。職員から居室に常夜灯を取り付けたらとの意見が出され、改善に繋げた例もある。職員との個人面談は年3回行い、業務内容のほかプライベートの事柄も話し合う機会としている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤怠状況を把握し賞与等に反映させています。パースデー休暇や新婚休暇などを取得して頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や経験が浅い方などに積極的に研修を受けていただいています。また外部研修以外でも施設内で研修の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や他施設主催の認知症カフェや研修会などを通じて交流を図っています。そこで得た知識を参考にして運営に反映させたりしています。また、時々電話で交流や意見交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これから安心して暮らしていけるように、ご本人に丁寧なヒアリングを行っています。また入居してからでも安心して頂けるように寄り添ったケアを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にも丁寧に説明し、不安がないようにしています。入居してからでも入居後の様子をお伝えし安心して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り本人とご家族が必要なサービスの提供をしています。例えば、診療所以外の受診も希望しているが、受診介助はお願いしたいなどにも対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の了承を得て食器拭き、お盆拭き、床掃除など個々の能力に応じた作業をお願いしています。また、郷土料理を調理して頂き皆様でご馳走になったり、味付けの相談などしています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な方は診療所以外での受診介助や外出支援をお願いしています。ご家族が遠方にいらっしゃるかたも多いので難しい方もいらっしゃいますが、イベントなどにも協力的なご家族はいらっしゃいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントや認知症カフェ、地域の行事に積極的に参加しそこで知り合いの方と楽しそうに話しているのをよく見かけます。	食材の買い出しに利用者が同行することもあり、買い物が一つの楽しみとなっている。理容は訪問理容師が2ヵ月毎に来訪し新たな馴染みとなっている。地元のお祭りに出かけて餅まきを楽しんだり、知り合いと久しぶりに会うこともある。また、普代村の祭りを見物に出かけたり、地域のお神輿が事業所に来てくれるなど楽しみが多くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や合わない方色々いらっしゃるので、考慮して席の配置換えなど行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去した際の相談やフォローを行っています。今までの関係性を崩さないようにしています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1回プラン作成時に本人の意向を伺っています。日々の会話においても希望や意向をお聞きする事がありますので、可能なものは担当者と検討しています。	半数ほどの利用者は、思いや意向を言葉で表現でき、食べることや畑作業などの希望が多い。魚類や地元の食べ物を食べたいとの思いが多く、郷土料理の提供などで希望に応えている。言葉で意思を伝えきれない方については、ふと口にした言葉を丁寧に聞き取り、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設利用開始前に本人とご家族に今までの生活歴などアセスメントしています。利用開始後にも会話の中でお聞きする事があるので介護をする上で参考にさせて頂いています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の1日の過ごし方を把握しており、日々変化があった場合は申し送っています。入浴時の皮膚の状態や食事量、バイタルの変化など気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回プラン作成時に本人やご家族の意向を伺っています。担当者と課題について話し合っています。意見や課題を反映した介護計画となっています。	ユニット毎に各ユニットのケアマネが計画を作成している。入居時の計画は暫定的なものとし、約3ヵ月後には職員カンファレンスで検討のうえで、入居後の状態を反映した正式な計画を作成している。モニタリングはケアマネが担当し、計画の見直しは外部の看護師や理学療法士の意見等も参考に、ほぼ3ヵ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果はタブレットや業務日誌に記入し申し送りを行っています。必要に応じて、担当者会議やユニット会議で話し合い介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 例えば、希望する受診介助や面会方法や理学療法士による個別のリハビリなどを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、施設での法要、花植えなどの参加など地域との交流を通して利用者様が地域の一員として生活できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する受診以外は田野畑診療所がかかりつけ医となっております。1ヵ月に1回の訪問診療やインターネットによる病状の確認など緊密に連携をとっています。	大半の利用者が村診療所をかかりつけ医とし、医師は毎月訪問診療してくれている。診療所とは気軽に相談できる関係性があり安心感がある。他に5人程が久慈市や宮古市の精神科の病院を利用しており、職員や家族が付き添って通院している。薬局の薬剤師が分包して配薬してくれており助かっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が出勤するので、普段の様子は連絡帳に書きその時に申し送りをしています。看護師は必要に応じ医師に情報を伝え、受診の必要性を確認しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は密に情報交換を行っています。また、入院中にも利用者の状態を確認し、退院後の受け入れがスムーズにいくように努め利用者やご家族が安心して頂けるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	診療所や病院との連携も行い、本人やご家族の重度化や終末期への意向を大切に、可能な限りの対応をしています。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明し了解を得ている。事業所では看取りを行った経験はなく、重度化した場合には特養施設等に入居することが多い。急変時には入院している。管理者は、中長期的な課題として看取りの取組みも検討する必要があると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署に救命講習を依頼し、急変時の勉強をしています。また、急変の可能性の高い方については事前に対応を周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設は避難場所となっており、安全な場所となっていますが、必要に応じ近隣の福祉施設と連携をとり、協力しあう事となっています。断水時の水の確保など地域の方にご協力を得る事になっています。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れ等の警戒区域となっておらず、旧小学校の体育館は福祉避難所にも指定されている。火災想定避難訓練は年2回実施しており、近所からは3人ほどの協力員も駆けつけてくれる。また、AEDの操作訓練は新人職員に対して必ず行っている。食料等の備蓄も3日分を備えている。	夜間想定訓練について、暗さを実感する中で利用者の反応などを確認出来るよう、可能であれば実際に薄暗くなる夕方の時間帯に計画することが期待されます。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室での羞恥心、自室等プライバシーを配慮しています。また、個人の気にされている事などには触れないように声掛けを心がけています。	排泄の際に失敗した場合には、周りから見えないよう配慮し、本人が落ち込まないよう優しい声掛けをしながら適切に対応している。また、入浴時に異性介助を嫌う方については、その気持ちに沿って職員を交代している。利用者へは、人格を尊重して「さん」付けの声掛けを基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の気持ちを表せるような言葉掛けをしています。何気ない日常会話から希望をお聞きし実現可能な物は検討しています。幾つかの選択肢を提案し自己決定して頂く事もあります。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をある程度本人の時間に合わせたり、その日の本人の希望で就寝時間を少し遅くしてテレビを見て過ごすなど一人一人のペースを大切にしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時などは化粧や紅を引いたりなどオシャレが出来るように支援しています。四季にあった服装になるように本人の希望を聞きながら揃えています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には下処理や準備のお手伝いをして頂いています。郷土料理の日には調理や味付けを皆さんで行ったりしています。料理に参加出来ない方でも味見をしてもらうなどで参加していただいています。出来る方には食器ふきやお盆ふきテーブル拭きなど手分けをしてお手伝いして頂いています。	食材は地元のスーパーを利用し、職員は利用者の好みも考慮しながら調理している。地域の方からは名産のワカメやコンブのほか、野菜も日常的に差し入れされている。利用者の希望から郷土料理の日やパンの日などを設け、ひつまみ作り等では職員と一緒に利用者も手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病気や体重の増減を把握し適切な量を提供しています。季節や運動量によっても水分量や種類を考えて提供しています。それ以外でも希望により居室に水筒を置くなどしています。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声掛けを行い、ケアが必要か見守っています。また、定期的に訪問歯科にきて頂いて口腔内衛生が保たれるようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行って失禁を減らし自立に向けた支援を行っています。	排泄は、布パンツを使用し自立している方が全体で4人おり、その他はリハビリパンツを使用している。排泄の状況を職員がタブレットに入力してチェックしており、これを基に適時の声掛けと誘導を行っている。排泄の状況が悪化しないよう職員はケアに努め、多くの方が入居前より改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に気をつけ運動をすることによって便秘の予防を行っていますが、排便チェック表にて排便管理を行い、適切な間隔と時間で下剤を個々に合わせ服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にできるだけ添った順番で入浴して頂いています。また、菖蒲湯やゆず湯など季節を感じる特別なお風呂も提供しています。	入浴は週2回を基本としている。浴槽は一般浴槽を使用しており、シャワー浴のみの方は3人である。入浴時は職員と1対1で本音を聞き出す機会ともなっており、家族との面会の話や歌を歌って楽しんでいる。また、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯も提供しており、利用者は楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、音、照明に注意し安眠できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の能力に応じた服薬の介助の仕方を行っています。主治医や薬局と連携をとり副作用や病状の変化が無いか確認しています。また、職員が薬の目的や副作用など分かるように閲覧しやすい場所にファイルを設置しています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業が好きな方には畑仕事やヤギの世話、料理が得意な方には料理のお手伝い、片付けが得意な方には洗濯たたみなど個々の能力に応じた役割をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴、畑仕事、ドライブレクなど希望にそってできるだけ出かけられるように支援しています。家族の希望により県外へ外泊するなど事前に協議を行い支援しています。	コロナ禍前のような外出支援が復活しており、お花見では近隣の普代村や岩泉町の桜を巡るドライブや、秋の紅葉見物を楽しんでいる。近隣地区のお祭りにも出かけて餅まきや山車見物を楽しみ、思いがけず知り合いと再会することもある。ヤギにエサやりしたり、散歩を楽しみながら外気浴をしている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はお金を自身で保管して頂いています。また、近くの自販機やお出かけ先での購入も間違えないよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいらしてご家族様とお話されています。お持ちでない方でも希望があれば施設電話を利用できます。また、年賀状をお出しするのも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から自然が見え、中では季節の物を飾るなど四季を感じる工夫をしています。光や温度なども不快にならないように気をつけています。	旧小学校の校舎を改装して整備した事業所のホールは、天井が高く日差しも良く入る明るい空間となっている。エアコンと加湿器等によって、ホール内は適温に保たれ、利用者は職員と一緒に体操やゲームを楽しんだり、秋には柿の皮むき作業を行ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日新聞を読んだり、パズルやテレビを楽しんだり気の合った利用者同士で語り合えるよう工夫している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつくえ(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた物を飾られたり ご家族との写真を飾られたりして居心地よく過 ごせるようにしています。また、配置についてもご本 人の意見を取り入れたりしています。	居室は小学校の教室を改装して整備した居室に は、ベッドとクローゼットが備え付けられ、エアコ ンで温度管理されている。利用者は、テレビやお 気に入りの人形、家族の写真やタンスなどを持ち 込み、壁面には職員とともに作成した作品や行 事の写真などが飾られ、居心地の良さが感じら れる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは大きな文字で場所をお知らせし、居 室は大きな文字で名前を書いています。また、掃 除が出来るように各居室にホウキとちりとりを設 置しています。		